

地元の道の駅での販売を機に、さまざまな加工品製造を開始 夫婦2人で新たなスタート



代表 齊藤 亮

ジャム工房のら
〒012-1103
雄勝郡羽後町林崎字機の前51-2
TEL:090-2367-7238
<https://jamfactorynora.stores.jp/>



HP

道の駅での出品が設立のきっかけに

羽後町で小さな加工所を営む齊藤さん夫妻。ご主人の亮さんは運送の仕事に就いていたが、兼業農家だった父が急逝したことで家業を継いだ。農業が未経験だった亮さんは、地元の大きな農家で13年ほど働いてから、ブルーベリーや切り花、お米の農家として独立した。ベリー類を栽培し始めたのは、3人の子もたちが好きだったからだ。

2016年に道の駅うごがオープン。自分たちで育てた野菜や果実のほか、加工品のジャムなどを出品するようになった。夫婦で農業の傍ら、のんびりと加工品を作って販売するような生活ができたかと考えていた中、2021年に転機が訪れる。食品衛生法が改正され、産直で販売する製品についても基準をクリアした加工所を持たなくてはならなくなった。そこでジャム製品などを作るため基準をクリアした加工所を設立、製造に関する免許を取得し、2022年3月「ジャム工房のら」の開業に至った。羽後町にある店舗では、瓶詰の製造のみならず、販売も行っている。



レシピ考案は亮さん、製造は朋美さんが担当。



のどかな景色が広がる羽後町で作る、夫婦二人の手作りの品は、県内各地に広がっている。



他の事業者との繋がりや、一般の方とコミュニケーションを取るため「起業家スタートアップ交流ラボ2024」にも出展。